

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	野呂 香
主な担当科目	ミュージカル・イン・イングリッシュ I (火3), 基礎英語 I_A(金2), 基礎英語 I_B(金3), 初級英語 IV_A(水2), 初級英語 IV_B(水3), 初級英語 IV_C(水4), 初級英語 IV_D(金1), 中級英語 II_B(水5)
2024年の教育目標・授業に臨む姿勢	昨年に引き続き、演劇や語学の学びを通して、世界で起きている事象を巨視的な視点で見つめる視座を共有すること。演じることによって自己を見つめ、他者の立場から物事を考え思いやる気持ちを育てること。母語ではない言語を学ぶことで『伝える』とは何かを問い直し、『生きた』コミュニケーションと『伝わる』表現力を養うことを実践すること。演劇的手法を用い、Body(身体)、Mind(心)、Spirit(精神)を使ったホリスティックなアプローチを通して、英語は生きたコミュニケーションのツールであることを学生に伝えることが教育目標である。
2024年の教育に関する自己評価	『基礎英語I』では洋楽の歌詞や映画のセリフやから表現を学び、実際に演じることで生きた表現を学び伝える楽しさを共有することができた。『初級英語IV(オーラル)』では、トラベルイングリッシュをテーマに海外での様々なシチュエーションでの実践的な英語表現をベースにコミュニケーション能力を高めることが出来た。『中級英語IIB(舞台芸術)』では映画・絵本・詩などの英語の台詞や文章や表現を題材に演劇的手法を通して英語での表現力を高め、各コースの特色を反映させたオリジナルの英語演劇作品を創作・上演することで「伝わる」表現力を養うことが出来た。『ミュージカル・イン・イングリッシュI』では自然な発声を促すための呼吸法や演じる身体を養うためのボディ・ワーク/シアターエクササイズをベースに「台詞」の背後にある想いや感情を言葉に乗せて伝える方法を教授することで英語のディクシオンを高めることが出来た。
2024年のFD活動に関する自己評価	学部・短期大学部・大学院音楽科FD合同研修会に4月・9月ともに参加出席した。9月のFD/SD合同研修会では教員と職員が日頃の疑問や問題点や解決策を語り合える有意義な分科会となった。ミュージカル分科会FDでは、1年次必修科目「ミュージカル・イン・イングリッシュI」担当教員として学生の様子を共有することで実技を含めた他の科目担当の先生方へのスムーズな引き継ぎが出来た。年に2回行われた語学分科会FDでは、独自のテーマを「語学授業内で行っている工夫について」とし、学生のレベル差や多様性が広がる中どのような工夫がそれぞれの授業でされているかの情報共有を非常勤講師の先生方と行うことができ良き交流の場となった。2023年度の語学分科会FDでは書記として報告書を取りまとめ提出した。
授業改善のために取り入れた研修内容	学部・短期大学部・大学院音楽科FD/SD合同研修会の場では普段ほぼ交流のない職員の方々と大学の環境(ハード面)について意見交換ができたことにより、各階に設置されている丸テーブルの位置や椅子の場所、照明の色や設置の仕方による印象の違い、人が交流しやすい空間作りや動線の工夫の仕方など示唆に富むアイディアを共有できたことで実際にこうした考え方を参考に教育現場で取り入れることができ、学生同士の交流を深めるきっかけとなった。教員だけでなく、職員と合同の分科会はソフトとハード両方の視点から議論が交わせるので大変有意義である。FD/SDの各分科会の報告書を教職員全員が何らかの方法で共有でき、次回のFDでのテーマや改善点として更なる議論が深まれば授業改善のみならず大学全体の環境の改善に繋がるのではないかと。

2024年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する「授業改善計画書」

教員コード:2072 教員名:野呂香

1)評価結果に対する所見

2)要望への対応・改善方策

3)今後の課題

基礎英語オールは、「こんなに英語の授業を楽しいと思えたのは初めてでした。」とのコメントが多数寄せられたことは今後の教材作成へのモチベーションに繋がる嬉しい結果となった。英語が言語の洋画のセリフを対話の表現として使った英語学修を実践しているクラスだが、ドキュメンタリーやスピーチなどを通して時事的な問題を「活きた」表現を通して学修できるような教材作りを心がけた。こうした生の英語表現を通して、学生が個々にメッセージを受け、「英語がわかるようになるにつれ、世界が広がった感じがしました。」と感じてもらえたことは喜ばしい。授業の最初の30分で導入している洋楽を使った穴埋め問題では、歌詞のカジュアルな表現を学べる機会でもあるので今後も継続していきたい。

初級英語オールは Oxford 出版社から出ている『Passport1』をテキストに使用したクラスで、主に旅先で使える英語表現を扱っており、各 Chapter に出てくる旅先での様々なシチュエーションでの実践的な会話を学び、内容をよりパーソナルな表現に置き換えてペアワークをし、それぞれにオリジナルの台本を作ってもらい、暗記をし、皆の前で発表をするという形式で授業を展開している。毎回、必ず英語のフレーズを暗記して実際にロールプレイで演じて実践を体験するという作業をクラスの main activity として取り入れている。歯科用の口の模型を購入し、舌の動きや口の中の空間の使い方など模型を使って正しい口の動きを真似てもらい発音指導をした。入国審査を一人ずつ体験してもらい、「将来行ってみたい国」についての英語のパンフレット作成など実践的な Travel English を体験してもらったことが結果的には授業の楽しさにつながったようだ。各 Unit に2回の授業を使い、1週目は会話文をノートに書き写し解釈を加えるという課題を通してインプット、2週目はその会話を実際に Act out することでアウトプットするという形で授業展開をしたが「英語を使ったコミュニケーションの機会が多く実践的な知識や経験をたくさん積むことのできる授業でとても楽しかったです」というコメントにもあるように、結果的に英語の楽しさを実感してもらえたようだ。

中級英語(舞台芸術)IIB は、私自身の専門でもある「演劇を使った英語教育」を導入／実践しているクラスである。この年は「Little Mermaid」(2023)というミュージカル映画から劇中の「Part of Your World」という曲の歌詞を教材として、「本当に自分がやりたいこと」についてディスカッションなども交えてグループワークを行った。そのプロセスにおいて皆が協働して一つの場面を作り上げるという経験を通してコースを超えた友達作りやコミュニケーションの場としてもこの中級英語 IIB での舞台作りは貢献できたようである。まさに演劇が内包している力のなせる技である。「表現するうちに『自分はこういう人間だったんだ』、『本当はこれをやりたいんだ』など普段生活していて気がつかなかったことに気づくことができました。この授業で学んだこと『自分に素直になってありのままに表現する』これを自分の演奏に活かしていきたいと思います。」とコメントにあるように、英語でのコミュニケーションを通してありのままの自分と向き合うきっかけを皆で共有できたことは意義深い。ワークショップ形式で授業を行っているこの授業のスタイルに適した教室を確保することが例年難しく、C301(第2汎用)やC101などの机や椅子がない空間を自由に使える教室が増えることを今後期待したい。

以上